

平成29年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑫課題:花豆の高品質省力生産に向けた収穫・栽培方法の検討(27~29年度)

代表者:北見農業試験場研究部 主査(地域支援) 奥山昌隆

目的

花豆の現行収穫体系に対する省力収穫方法の作業効率、労働負担及び品質に及ぼす影響を検証するとともに、手竹作業、根切り時期など省力化・高品質化に寄与する栽培方法を検討する。

成果

①省力収穫作業法の検討

- ・受網形状などを改良したピックアップスレッシャによる収穫試験では、損傷と未熟莢の未脱が少なくなった。また、農家慣行の「にお脱穀」と比較した場合であっても、損傷と未熟莢の未脱は少なかった。
- ・腰部サポートツール着用による根切り作業後の聞き取り調査では、腰への負担軽減が確認できた。簡易器具による根切り作業の検討では、延長柄を用いることで、慣行豆刈鎌に対し前屈時間が短縮し作業性の改善がみられた。

②省力化・高品質化に向けた栽培法の検討

- ・慣行・標植区(株間80cm)に対し、疎植区(株間85~95cm)の収量性は同程度で、5分上粒重率は同程度からやや上回り、手竹本数を削減した省力栽培が可能と考えられた。

改良型ピックアップスレッシャの損失割合

